

「平成 29 年度 学校・家庭・地域連携研修会」事業報告

1 事業名 平成 29 年度 学校・家庭・地域連携研修会

2 期 日 平成 29 年 9 月 13 日 (水)

3 参加者 90 名

4 日 程

時 程	内 容
13:30	受付
13:50	開会行事
14:00	研修 1 〈パネルトーク〉 「学校・家庭・地域が連携・協働した取組の構築に向けて」 パネリスト 川崎町立川崎小学校 校長 益田 茂 氏 田川市立金川小学校 元 PTA 会長 津田 利枝子 氏 桂川町学校支援コーディネーター 平嶋 智晃 氏 コーディネーター 筑豊教育事務所 社会教育室室長 北富 真治
15:00	
15:10	研修 2 〈講話〉 「『つながり』こそが子どもを育てる」 大阪大学大学院人間科学研究科 教授 志水 宏吉 氏
16:40	閉会行事
16:50	

5 活動の実際

研修 1

(1) 内容

研修 1 では、学校の立場から小学校校長、家庭の立場から元 P T A 、地域の立場から学校支援コーディネーターの三者に登壇していただき、学校と連携・協働した取組をもとにパネルトークを実施しました。川崎町立川崎小学校からは、学校教職員の「つながり」をはじめ、子どもたち、保護者、地域の方々との「つながり」を大切にした取組について、田川市立金川小学校 P T A からは、子どもたちの実態から、遊びを通じた体験格差を埋める P T A 行事の取組について、桂川町学校支援地域本部からは、学校支援コーディネーターが、学校の授業や要望と学校支援ボランティアの活動をつなげていく取組について、それぞれ紹介がありました。そして、学校・家庭・地域が連携・協働した取組を構築していくうえで、取組の目的やそれぞれの思いを「共有・共感」していくことが重要であることを確認していました。



パネルトークの様子



パネルトークを聞く参加者

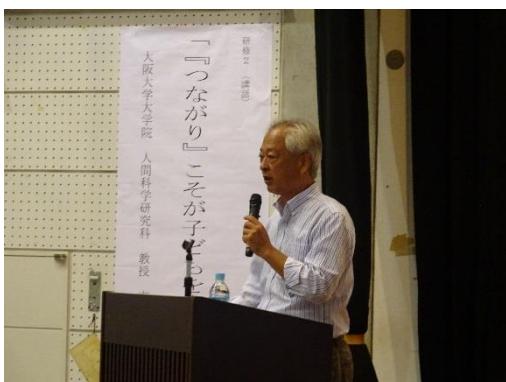
(2) 参加者の声（概要）

- 学校が地域や家庭とつながることの大切さを改めて感じました。
- 学校・地域・家庭それぞれの取組が子どもたちを育していくためにとっても大切で、またそれぞれのつながりも大切であることがわかりました。
- 3人のパネラーの皆様に具体的な実践を話していただき、どのように連携していくかのイメージが少しあきました。関わる人の熱い思い、明確なビジョンの大切さを感じました。
- 学校が地域や家庭とつながることの大切さを改めて感じました。そしてその三者のうち、どこか一つだけが頑張るのではなく、それぞれができる事をし、協働でつくりあげることが必要だと思いました。

研修2

(1) 内容

研修2では、全国学力・学習状況調査の結果と地域性の関係、以前実施された学力テストとの比較、さまざまな地域の事例の紹介等があり、人と人との「つながり」こそが、子どもの学びや育ちにとって重要なことについて、講話がありました。



講話をを行う志水氏



講話を聞く参加者

(2) 参加者の声（概要）

- 多くの事例を交えて、「つながり」の重要性をお話しされました。特に印象に残った内容は、「学びは人と人との間でおこる」ということです。
- つながり、縁が人をつくる。そこに学力がついていくという話はとても分かりやすかったです。
- 印象に残ったのは、教育、子どもを育てるには「つながり」が大切であること、そのつながりは、昔はあたり前であったが、今日では意図的に取り組む必要があるということです。
- 「人間関係のつながりが強いほど、子どもの学びが強固たるものになる」という言葉がとても印象深かったです。地域の人間として、体験活動家として、子どもたちへの学びへのアプローチを考えさせられました。

6 全体をとおして

研修会については、教育委員、社会教育委員、学校教職員、PTA役員、教育行政職員等々、様々な立場の方々が一堂に会し実施する事ができました。それぞれの立場で、「学校・家庭・地域の連携・協働」について考える機会となつたようでした。

パネルトークについては、三者がそれぞれ充実した内容を紹介した結果、「もっと聞きたかった」という声が多かったです。研修2の講話についても、多くの地域での事例紹介を交えての話で、「わかりやすかった」という声も多く、最後まで熱心に参加してもらい、有意義な時間となりました。